

ホルン アドバイザー



小林 郁子

栃木県宇都宮市出身。

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ホルン専攻卒業。

ホルンを故田中正大、山本真、今井仁志の各氏に師事。

MCF オーケストラとちぎ、足利市民会館専属足利カンマーオーケスター各メンバー。

栃木県を中心に後進の指導にあたる。

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

1. はじめに

大ホールはいつもの練習環境とは全く異なります。
広々とした空間や響き、眩しい照明、そしてお客様の存在。
そのような環境で演奏する前は準備をしっかりとしましょう。



2. 日々の練習

演奏する曲を最後まで吹き切るスタミナを身につけましょう。
当たり前のことですがプログラムによってはとても大変なことです。
日頃からロングトーンやリップスラー、リップトリル、エチュードなどの十分な
練習と適切な休憩を心がけましょう。
また、大ホールを想定したフォルテやピアノも手を抜かずに練習することが
大切です。

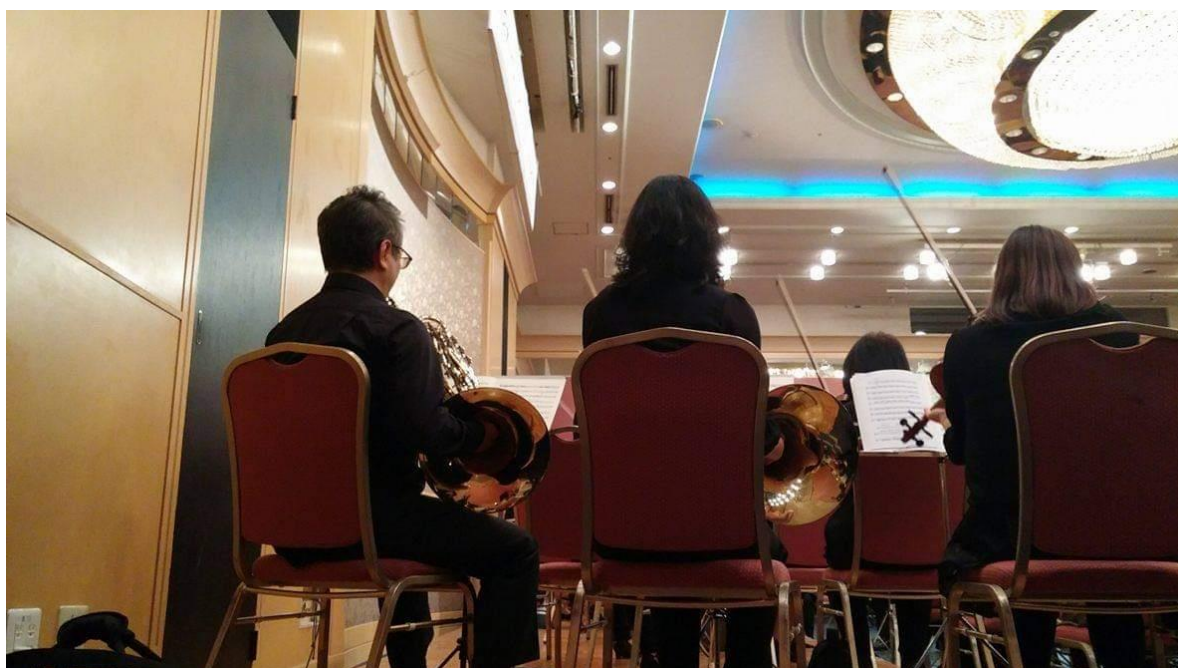
3. 緊張に備える

私はとても緊張するタイプなので長年この問題と向き合ってきました。たくさんの人に話を聞いたり自分のその時の心理状態を分析してみたり。結果、本番は誰でも緊張するもので緊張しなくなることは無く、またそれは必要なものでした。

そこで大切になってくるのは緊張する前提で練習をすることです。例えば間違いなく緊張するであろう曲中のソロ、普通に練習するだけでなく満席となった大ホールや明るい照明など音を出す前に頭の中に思い浮かべるといつもより緊張感をもって演奏することができます。

4. ベルの向き

反射音を聴かせるホルンにとってベルの向きはとても重要です。オーケストラや吹奏楽であればステージ後方に配置されることがほとんどなので問題ありませんが、ソロの演奏では注意が必要です。壁との距離が遠くなることで客席に音が届くまでの時差が出てしまったり、モコモコして音の粒が不明瞭になってしまったり。あらかじめホールで演奏する機会があれば曲に合った響きを得られるベルの向きを研究してみると良いです。



5. 本番

本番の時は呼吸が浅くなりがちです。管楽器にとっては致命的なのでしっかり息を使うよう心掛けましょう。演奏前に深呼吸するのも良いと思います。

また、普段は自然に動いている体も緊張で固まっているかもしれません。

意識的に体を動かして演奏すると良いです。

フォルテもピアノもホールの隅々まで響かせるように演奏してください。

本番中ミスをしてしまうこともあると思います。ですが一旦忘れて演奏に集中しましょう。反省は演奏が終わってから！

6. おわりに

本番での良いパフォーマンスは日々の努力の延長線上にあります。

学生時代師事していた先生は曲の練習をほとんどしないと仰っていました。

基礎を大切にしながら、しっかりと準備をしましょう。

準備を万全にしたらあとはその時間を楽しんでください。